

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金） 第4回変更

令和元年12月9日

計画の名称	24 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた歴史的市街地整備	重点配分対象の該当
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）	交付対象
計画の目標	鶴岡市	

鶴岡市の市街地は、市街化区域（1,713ha）の内、中心市街地（歴史的風致維持向上計画の重点区域120ha）が7%を占め、1622年酒井家入部より城下町の都市骨格が形成され、以降、鶴岡公園周辺を中心とした江戸時代からの町や商店街の「中心住宅地」、高度成長期（昭和45年～）に民間開発された「新興住宅地」、昭和60年代からの大規模区画整理等の「新住宅地」と、時代の変遷に伴い三重構造の市街地を形成してきた。しかし、中心市街地での人口減少高齢化から始まり新興住宅地にまで及び、その対策として、2000年度以降から「中心市街地への都市機能集積」を目標に、鶴岡公園周辺に学術・文化施設を配置しコンパクトシティを推進してきており、さらに引き続き、2040年問題（人口減△35.5%、若年女性人口変化率△52.5%）に対応し人口減少に歯止めをかけるため、歴史的風致の特性を生かした市街地整備と郊外地が均衡し発展する多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向け、下記の3点を都市政策目標に掲げる。

①まちなか居住・まちなか観光の推進…中心商店街へのまちなか居住と観光客の遊動を促すため、『中心市街地道路の一方通行解除』を行い遊動空間整備を図るとともに、歴史的風致維持向上計画に基づいたまちづくりプロジェクトを推進する。

②コンパクトシティの形成（コアとサテライトの拠点整備）…中心部は歴史的な中心市街地のまちなか整備とまちなか居住施策を展開し、併せて市街地のエッジとなる西部、南部、北部には住環境を伴うサテライト拠点を形成し、人口流入の受け皿となる『鶴岡市茅原北土地区画整理事業』を推進する。

③環状道路からの中心市街地へ繋ぐ交通ネットワークの機能向上…市外と中心部の人口流動を促すため、市街化区域の外縁である環状道路（R7、R112）の東西南北から中心部を繋ぐための交通ネットワークを形成するため、特に未連結となっている北側（秋田・酒田方面）から市街地を繋ぐ南北軸の『3.6.1道形黄金線』（馬場町工区（県事業）、余慶町工区（市事業））を整備する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・中心市街地における空き地・空き家率の増加を緩和させる
- ・中心市街地の観光施設年間入込み客数の減少率を緩和させる
- ・市街化区域内における居住者人口の減少率を緩和させる

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考								
	当初現況値 H28当初	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)									
市内の空き家発生棟数の緩和（H24.3鶴岡市住環境基本計画書より）（中心部空き家増加予測 - ランドバンク事業効果）	2,273棟	2,302棟 →2,241棟	2,352棟 →2,273棟									
中心市街地にある観光施設（6施設）の入込み客数について、直近過去5年間における減少率の緩和	39.9%	20.0%	0.0%									
市街化区域内の居住者人口について、減少率の緩和（H27.3新市建設計画より）	0.452%/年	0.414%/年	0.376%/年									
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	2,977百万円	A	2,967百万円	B	0百万円	C	10百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.3%

交付対象事業

A 基幹事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考	
									H28	H29	H30	H31	H32					
24-A1	道路	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	(他)南町荒町大宝寺町線ほか <small>本町二丁目</small>	交差点改良(N=1箇所)	L=0.44km	鶴岡市						39			
24-A2	道路	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	(他)余慶町西茅原線 <small>本町一丁目</small>	道路新設	L=0.80km	鶴岡市						1,400			2022
24-A3	道路	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	(2)大泉橋一日市町線 <small>本町一丁目</small>	交差点改良(N=1箇所)	L=0.13km	鶴岡市						125			2020
24-A4	道路	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	(1)茅原高田平京田線 <small>茅原</small>	現道拡幅	L=0.10km	鶴岡市						22			2020
24-A5	街路	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	3・4・19山王町本町線(本町一丁目工区)	現道拡幅	L=0.27km	鶴岡市						840			2020
24-A6	街路	一般	鶴岡市	間接	茅原北区画組合	3・4・22鶴岡駅茅原線(茅原工区)	区画整理	A=25.0ha	鶴岡市						541			2020
合計												2,967	0					

B 関連社会資本整備事業（該当なし）

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H28	H29	H30	H31	H32				
合計												0					

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
									H28	H29	H30	H31	H32			
24-C1	施設整備	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	防犯灯設置	防犯灯	N=60基	鶴岡市						10	
合計												10				
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	
C-1	市街地整備に合わせて防犯灯設置により、安全で安心な地域づくりに貢献する。															

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H28	H29	H30	H31	H32		
合計												0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考

交付金の執行状況

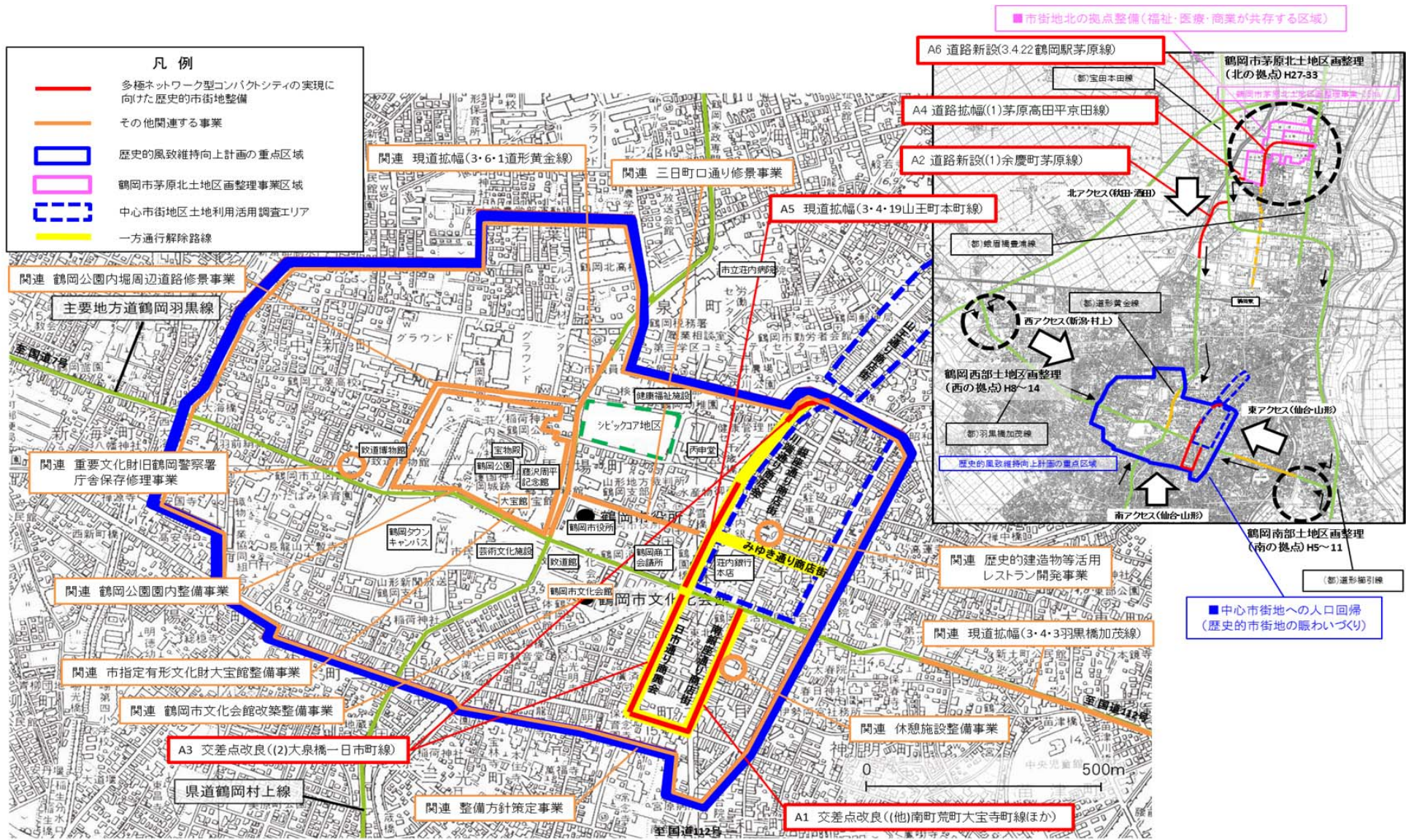
(単位:百万円)

	H28	H29	H30	H31	H32
配分額 (a)	153	148	131		
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	153	148	131		
前年度からの繰越額 (d)	0	76	23		
支払済額 (e)	77	201	85		
翌年度繰越額 (f)	76	23	69		
うち未契約繰越額 (g)	16	0	0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	10.5%	0.0%	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	用地補償の遅 延難航				

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

参考図面 (社会資本整備総合交付金)

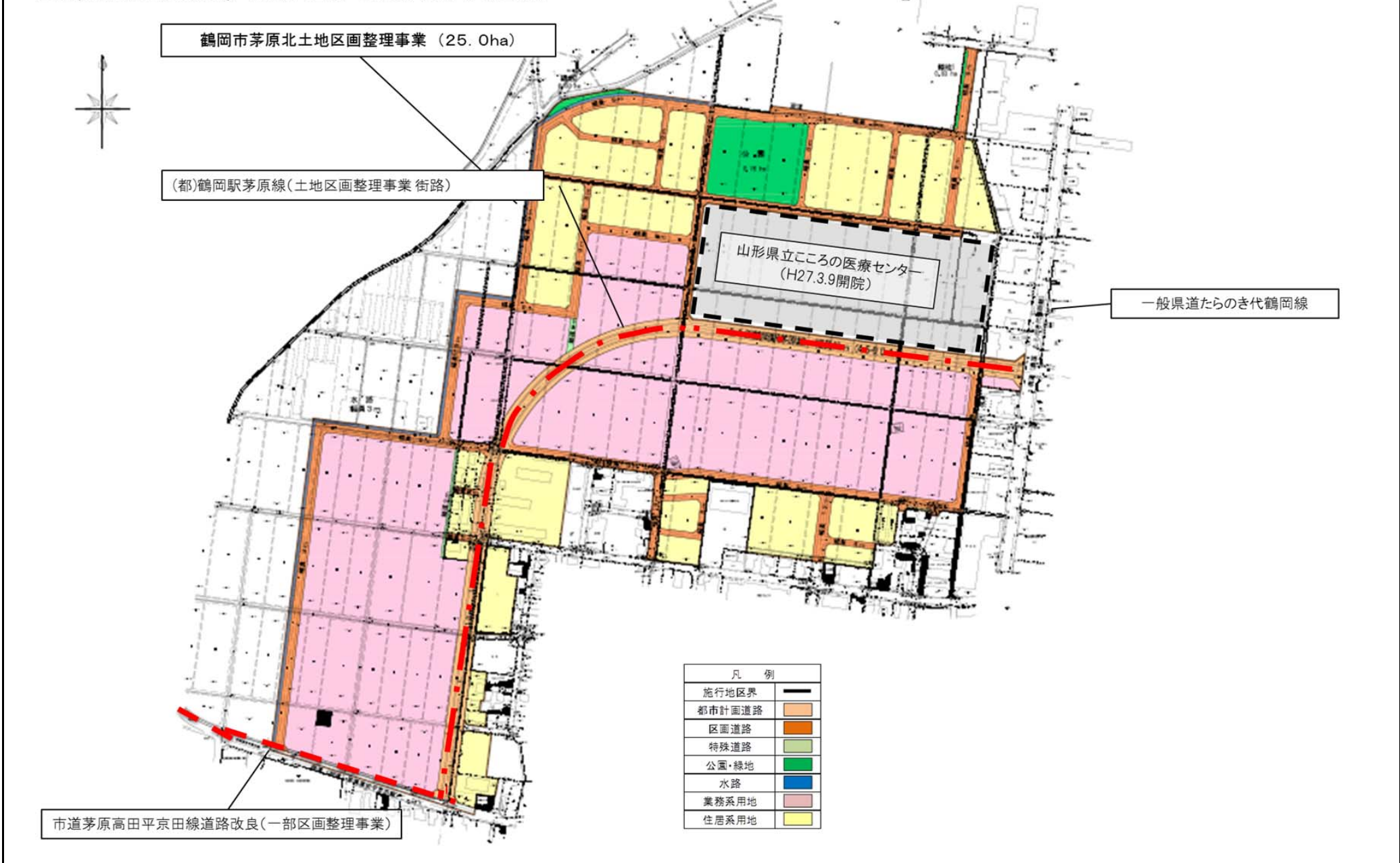
計画の名称	24 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた歴史的市街地整備		交付対象	鶴岡市
計画の期間	平成28年度 ~ 平成32年度 (5年間)			



参考図面 (社会資本整備総合交付金)

計画の名称	24 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた歴史的市街地整備		交付対象	鶴岡市
計画の期間	平成28年度 ~ 平成32年度 (5年間)			

■市街地北の拠点整備 (福祉・医療・商業が共存する区域)



社会資本整備総合交付金チェックシート

事業主体: 鶴岡市

計画の名称: 24. 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた歴史的市街地整備

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との適合等	
1) 上位計画等と整合性が確保されている。 <small>(該当するものに○) 1 国土形成計画全国計画 2 国土形成計画広域地方計画、北海道総合開発計画又は沖縄振興計画 3 社会資本整備重点計画 4 環境基本計画 ⑤その他(以下の空欄に計画名を記載) 鶴岡市総合計画 (http://www.city.tsuruoka.lg.jp/shisei/seisaku/sougoukeikaku/kikaku09.html)</small>	○
②地域の課題への対応	
1) 整備計画の目標が地域の課題解決へ向けた対応となっている。	○
II. 整備計画の効果・効率性	
①目標と事業内容の整合性等	
1) 定量的指標が整備計画の目標達成へ向けた指標となっている。	○
2) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
3) 事業内容が整備計画の目標達成へ向けた内容となっている。	○
②事業の効果	
1) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものになっている。	○
III. 整備計画の実現可能性	
①地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
②円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○